

館報

おおくま

おもな内容

- 2面…教育の基本方針熊町小学校長あいさつ
- 3面…清流大野小学校長あいさつ
- 4・5面…人事消息講座
- 6面…文芸
- 7・8面…みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷機



楽しい遠足

春ねむつていた草や木
そして動物も目をさます
子供達も長かった冬から
解放されて
やわらかい春の日を全身
にあびて どの顔も
希望に満ち さあー出発
待ちに待った遠足だ

花 あげにはかれんなスミシモ
咲いている

桜の花も今が見頃満開だ
背にはずっしり重いリュックザックを
せあい 中身はなんだろうな

お田さんが作ってくれた
お弁当 飲物 果物

今日は楽しい遠足だ

鳥は野、山、庭先まで
ビィビィ、ピー、チィチチ、チー

小鳥が春の歌を唄ってる
皆が家へ帰ったら今日の出来事

ビィビィ、ピー、小鳥のように
さあやうなう

底のぬけるような蒼い空
楽しい思い出の遠足

楽しい思い出の遠足

(写真は四月二十四日行われた、
大野幼稚園の楽しい遠足風景)

昭和五十六年度 教育の基本方針について

教育長 太田芳一郎

四月六日には小中学校の入学式
同七日には幼稚園の入園式が挙
行され、町内随所に黄色の帽子、黒
や赤のランドセルが目につき新年
度の学期始め酬というところです。

幼稚園、学校共に各先生方の陣
容も整い、「ゆとりと充実をめざ
す学校教育の推進」という大きな
目標に向けて前進を始めました。
町民の皆さん今年一年またよろし
くお願い申し上げます。

教育委員会は次代を担う児童生
徒の健全育成のため町内各種機関
を通して町民総ぐるみの人間相互
信頼意識の回復と道徳意識の高揚
を図ることを基本として教育全般
の推進を図ってまいります。

◇学校教育

現今広く教育の在り方が問われ
ておりますが町内各学校において
は、「自ら考え正しく判断できる
力をもつ生徒の育成」を旨とし適
正な教育課程の編成を行い昨年度
の成果を踏まえながら教育活動を
展開してゆきます。また道徳教育
と生徒指導については一層の充実
を図り指導計画の改善をつげな
がら人間性ゆたかな児童の育成を
目指して参ります。大野小学校の
第一期工事も立派に完成いたしました。
ほとんど視聴覚教室、音楽

室等の特別教室であり一般教室は
今年度の第二期工事で完工し五十
七年四月の新学期から児童生徒が
新校舎で学ぶこととなりますが今
後のご協力をお願い申し上げます。

◇幼児教育

本町の幼稚園教諭陣並びに園舎
の完備は相双教育事務所管内随一
との定評がありますのでそれにふ
さわしい「しつけ教育と情操教育
そして身体づくり」を中心として
幼児教育を進めていきます。

◇社会教育と社会体育

教育委員会は相双教育事務所と
連携をとりながら全国的に発生し
ている青少年の非行事故の問題に
対処し、町内からは一件の非行事
故をも出さない意図のもとに各家
庭のご協力をいただき公民館を窓
口として強力に進めていきたいと
思い、特に次の二点を重視します。
○中央公民館中心の家庭教育学級
等各種学級講座の充実。
○部落公民館事業を通しての家庭
教育。

社会体育については町民の皆様
方からの要望が非常に多いのでご
ざいます。昨年七月発足しました
財団法人スポーツセンター運営協
会の効率的な運営によりまして町
民皆様方の満足できる対応策を検

討し改善を加えて参りますのでよ
ろしくご協力の程お願いいたしま
す。

◇町史編さん

身近かな町史の編さんを目標に
進めて参りました。この画期的な
大事業も昨年度、町史第四巻史料
近代編を配本することができ町民
の皆さんのご協力に感謝申し上げ
るところであります。今年度は第

子どもの思考力を生かす 学校経営

熊町小学校長 橋本正文



年度末教職員人事異動により熊
町小学校長として四月一日着任
いたしました。

本校に着任以来目に映ったこと
は、全国緑化コンクールで日本一
になった環境とあって、そのた
づまいのすばらしいこと、また町
の文教施設がよく完備されている
こと、加えて地域住民の教育に対
する熱意の深さと広さを聴取し、
感服しているところでありませ
う。着任以来、日が浅い訳ですが所
感の一端を述べてみます。
小学校の教育は「保育」ではな

三巻近世史料編刊行を予定として
進めておりますが、特に愛町精神
高揚のため各種学級生や中学生に
文化財や遺跡の現地見学会等の研
修会も計画いたしますのでご参加
願いたいと思います。

以上、教育の基本方針を簡略に
申し上げましたが今年も教育行政
推進に絶大なご支援とご協力をお
願い申し上げる次第でございます。

子どもを育てる

- ①「教え」の確立が必要であるとい
う基本理念にもとずき、
- ②「育」の気力ある学校づくりのた
め、よき発想の転換により、仕
事を通し切磋琢磨して助け合
い魂のふれあいを重んじたい。
- ③生きた血のかよった組織、つま
り学級、学年、教材などのセク
トをなくし、組織体として共通
目標の周知徹底、実践につとめ
る。
- ④開かれた学校づくりに専念し、
家庭、地域の声にも謙虚に耳を
傾け、教育目標達成に心を燃焼
しアプローチしたい。

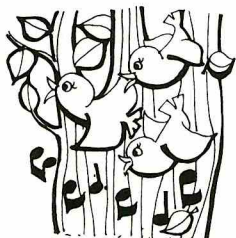
以上の三点をふまえながら、知
徳、体の調和のとれた豊かな人間
性の育成をめざして、教育の効果
を一層向上させたい所存でありま
す。いまや、社会環境の変容は著
しく、共働きの家庭も増加の一途

をたどっているとき、学校と家庭
の連けい活動が、とかく片寄りが
ちになり、それに適切な対応が欠
ければ、マイナス条件のすることは
必定でありますので、学校は何を
考え、家庭は何を期待し求めてい
るか相互理解を深めながら、心の
ふれあいを重視した学校経営に全
力投球する考えであります。

次に、幼稚園を兼任することに
なりました。小学校同様初めての
経験になりますが、幼児期におけ
る「人間形成」の重要性を認識し
全職員と協力態勢をとりながら、
楽しい園生活ができる雰囲気づく
りに専念したいと考えております。

最後になりますが、有名な数学
者、広中平祐さんは、設定した目
標めがけて挑戦(チャレンジ)す
るには、まず第一に情熱が必要で
あり、そしてチャレンジに欠くこ
とのできないのが理性だといっ
ております。

教育の転換期を迎えた今日、主
体性をもって計画し、勇気をもっ
て実践し、悔を千載に残すことの
ないよう精励する覚悟ですので
よろしくご指導とご助言をお願い
いたします。



大野小学校長を拝命して

大野小学校長 大崎 猛



昭和五十五年度末教職員人事異動により大熊町立大野小学校長を拝命し四月一日着任しました。

自然の環境に恵まれ地域の皆様も大変教育に熱心であり、由緒ある伝統を持つ大野小学校に勤務す

清流

幼稚園に通っている二男が春休みのある日、茶の間で新聞の折込みチラシの裏に鉛筆で何かを書いていたが「お父さんこれ見て、じょうずでしょう」と言うので「ああじょうずだよ、でもこれなあに」と問うと「ガチヨウだよ」とのこと、ああNHKでやっていた「ニルスの不思議な旅」に登場したガチヨウだなと思っていたが、よく見るとこのガチヨウは足が四本あるのではないか。そしてふと去年の秋の頃だったと思うが、福島大

先生がこのたび赴任される学校は東北一と称される立派な校舎の建築を行っている学校でおめでとうございます。相馬地方に七年もお世話になり双葉の各学校の現況にうとくなっていました私にとり驚きでありまた喜びでした。着任に際し外観は古びた木造校舎ながらも、清楚な中に立派な歴史を感じとりました。一步校舎に足を踏み入れた時その素晴らしさに驚きました。よく磨きぬかれた校舎、心豊かさを物語る鉢植の花、それは鉄筋コンクリートの校舎にはない暖かさそのものでした。その中に生活してきた人、現在生活している子供の姿そのものであり、それは一朝一夕では築き得ることので

ることになりその責務の重大さを痛感しております。私自身非才であり初心を大切に誠心誠意職務に努力する覚悟ですので、今後共御指導御鞭撻下さいませようお願い申し上げます。

本町にお世話になることになり未だ短日時で当を得てない点もあるかと思いますが感想を述べさせていただきます。

三月末の異動発表後、多くの方々から有難い励ましの言葉、祝詞を戴きました。その一つに「校長

学で学生の何人かに鶏の絵を書かしたら、十多位の学生が四本足の鶏を書いたことを報じている新聞を見て、「何んとまあ最高学府にいる大学生ともあろうものが」と失望と軽蔑の目で新聞を読んだこ

四本足のガチヨウ

館報編集委員 鎌田 清 衛

とを憶えていましたが、それが自分の子供となると、親とは馬鹿なものでも軽蔑していたのが身近かな現実となってくると、自分がその渦中にあるような気持で、笑いごとでは済まされない感じがしてきます。

その時子供に鳥の足は何本ある

のかを問うと、四本だと頑張るのです。牛も犬も鳥も四本だという籠で飼育している小鳥や野鳥が二本足なのは見ているが、大きな鳥や鶏は四本と知っているらしい。この子はまだ幼稚園児だから、こ

きない姿をみる事ができました。この伝統を更に築きあげたいと考えています。昨今は消費が美德化され物質的に不自由のない豊かな社会であることは万人認めるところであり「もったいない」という言葉の使い方も知らない子どもも多く存在するときです。真新しい品物さえ一旦「落し物」として届けられてきた時は、その持主が現れ出ることの少いことは前任校で経験しているところです。新校舎建築に伴う移転前後の無様な校舎の姿も数多くみて参りました。始業式での第一声にこの磨きぬかれた歴史のある立派な学校をこの一年間更に磨きぬいて立派な姿で、「お世話になりました。ありが

とうございました、町にお返ししましょう」でした。このことは子どもと共に一年間努力して参りましたと思います。

次に街頭の処々に「ポイと捨てるな空かんなどを」のステッカーが見られます。町内の道路の整備状況の素晴らしさに加え道路脇の美しさでした。昨今公共心の薄らぎは大人社会にもみられる処です。どここの道を通っても「ゴミの山、あき缶更には古タイヤの投げ捨て」さえ見られる処が少なくありません。校内の美も大人の方が示してくれている無言の教訓が子どもにもよい影響を与えてくれていると信じます。

過去に子どもと共に行った遠足の際、最後尾を歩きました。僅か数百米の間で菓子の包紙等を手にいっぱい拾って歩いた経験もあります。この町における「よき風習」を更に立派なものに育てあげていきたいものです。

最後になりましたが、全国的傾向としてみられる子供社会の無気力、無責任、無関心、無感動、無作法の五つについて皆様と共にその是正について方策を考えていきたいものです。



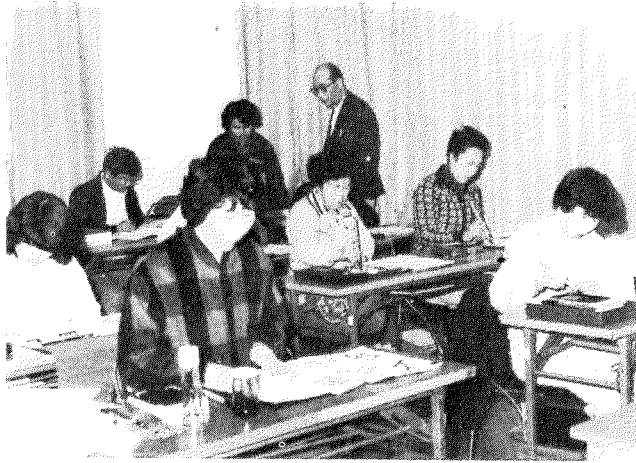
料理学級生として

思うこと

主婦の仕事の中で料理を作ることは、毎日かかすことの出来ないものです。四月のスタートと同時に主食の米と麦、はがきが値上げされ、春らしい暖かい日もどこへやら、家計を預かる主婦にとつては、ますます財布のヒモを締めなくてはならない今日この頃です。せめて毎日の食事だけでも、おいしく出来るだけ安いものを作っていくかなければなりません。そういう上で料理教室での工夫された

でも言うのでしようか、なんて言ったら少しオーバーかも知れませんが、おしいかた料理も覚える事は出来ないもので、何度か失敗を繰り返しながらもおさらりをしております。そのうちにきつと何か「コツ」みたいなものが見つけられればその料理はもう私の自慢料理になることでしょう。良い味を知る為においしいものを味わい、そしてあれこれ思いをめぐらしながら創造の楽しさとして料理を作っていくたいと思っております。

緑ヶ丘 登坂 茂子



書の講座

雑感

大熊町公民館の書道講座も、この四月で九年目をむかえた。この間、開講当初からのこの講座で書を通じている人は、指導者である井戸川碧水先生を除くと僅か三人足らずである。開講時の会員数はといえ、二十三名であった。顧みれば、この書道講座に少しでも席を置いてやめていった人の数は相当数に

書の講座

達するものと思われる。これは何も書道だけに限ったことではないが、公民館の講座で書を学ぶことが、書を学ぶ全てで無いにしても種々の障害を克服して、そこに参加し、忙しい中にも自分の時間をつくり、自分で苦勞してそれを続けてゆくことによつて、会員が芸術に對し、心をひとつにして、切磋琢磨することができるとはなからうか。

熊町 酒井 正直

小中教職員

- 四月一日付で教職員の異動があり、町内の小中学校に次の先生方が着任それぞれ立場で子どもの教育に精励されています。
- 大野小学校(カッコ内は担任)
 - 校長 大崎 猛
 - 教諭 志賀 操(二年二組)
 - 佐藤由子(四年二組)
 - 山中正一(五年一組)
 - 大熊中学校
 - 木幡千賀子(栄養技師)
 - 大熊町保育所
 - 会長 阿部 淳平(下野上四)
 - 副会長 佐々木好勝(下野上四)
 - 武内 夏江(野上三)
 - 大野小学校
 - 会長 石田 宗昭(大川原三)
 - 副会長 米倉 隆夫(野上四)
 - 関本 隼子(下野上三)
 - 熊町小学校
 - 会長 植田 実(熊 町)
 - 副会長 吉岡 順(大和久)
 - 根本 友子(小入野)
 - 大熊中学校
 - 会長 長川井 利治(下野上四)
 - 副会長 新長 一郎(小入野)
 - 渡辺 博之(大川原二)
 - 熊町幼稚園
 - 会長 松本 光清(熊川)
 - 副会長 松永 秀篤(熊川)
 - 元木あや子(熊二)

PTA

人事消息

△PTA役員▽
町内の幼稚園及び小中学校のPTA総会がそれぞれ開かれ、今年度の役員に次の方々が決まりました。今後一年間PTA活動を通し、子ども達の学習や生活のし易い環境づくりに活躍されます。

会員募集

三月二十五日発行の館報に掲載しました大熊町弓道会、大熊

町柔道会々員を随時募集しておりますので、健康増進と精神修養のためにもどうぞ。 申込先 大熊町公民館

かしのこい消費者となるために

物価と消費生活は、私達日常生活の中に定着化している今日です。限られた資源を大切にしかも豊かな物資の中から身体の安全を守り、日々高騰する物価にどう取りくむか、五十五年度は県町婦人団体の主催する「かしのこい消費者としての学習」の研究会が行われました。町内にある各婦人団体が自主的に参加し、いつも学習に取りくむ姿勢は本当に喜ばしい限りです。

(一)宮城県消費生活センターを訪れて(公民館バス一台)主に苦情センターに申込まれる内容は、食料品、日常生活用品、宅地、人間関係、電気器具、保険、サラ金等のトラブルについて、その内三十

福島県芸術祭が 今秋相双で開催

△趣旨▽
県民による芸術の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞の機会の提供並びに芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図るものとする。

△主催者▽
福島県教育委員会及び福島県並びに主催行事開催地区市町村教育委員会及び市町村。

第二十四回福島県芸術祭の開催

地が本年は相双地区で開催されることになり、大熊町では書道展の会場が決定され、その準備を着々とすすめておりますが、書道愛好者の皆さんにおかれましては今から心がけられ優秀な作品を出品されますようお知らせいたします。

尚、開催期日は十一月初旬の予定ですが、開催要項等決定次第チラシ等でお知らせいたします。

のできるリフォーム(再生)展示会等の学習でした。

(三)消費者懇談会(町企画課)

クリーニングの取引条件の適正をはかる自主基準が昭和五十五年四月に制定されたその内容、苦情等について、双葉地方クリーニング店と町内婦人の懇談会でした。

(四)知っておきたい契約の知識(県消費生活センター大熊町企画課)

売買契約、供給契約、受信契約雇用契約等生活上の契約の知識について 商法に関する法律、クリーニングオフとその具体的方法や内容証明の書き方等家庭管理一般の学習でした。

(五)物価とエネルギーを考える研究会(県民生活課)

世界のエネルギーの現状と八十年代の日本の方向等についての講

大熊町史(第四巻史料編) 出版「発売中」

大熊町史第四巻史料近代編が発刊し、ただ今発売しております。

第四巻史料編には、子孫に残すべき貴重な史料がたくさん記述され購入された方々から好評を受けています。この機会に是非「一戸に一冊」備えつけるよう、お勧めします。

●連絡先 大熊町役場内
大熊町史編さん室(Tel 2111)



- 体裁 規格 B五判上製本箱入り
- 表紙 総クロス
- 印刷 活版
- 頁数 六〇〇頁
- 価格 四、〇〇〇円

演があり、石油時代は先がみえている日本の少資源国が世界一の消費国であり、産油国のアラブ、イラン、イラク、中東ですら資源を大切にし、自国を守るための構えであるという。家庭の一人一人が省エネに取りくみ我が家の点検をし、無駄を省くと共に自分の生活に合った省エネや代替エネルギーを考える対策に取りくみ、いかなる不況がきようと耐えられる心の準備をする時期であるといわれました。手近かな家計の点検から始めて我が家の省エネに取りくむ姿勢が大切であります。本年度も一人でも多く参加し幸せな家庭づくりに役立て豊かな心の糧にして頂きたいと思っております。

婦人会長 木幡 キサ

町民憲章

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう
 みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう
 きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう
 自然を愛し きれいなまちを つくりましょう
 進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう



文芸



詩

私の自転車

熊小五年 時田 詩織

私の自転車は いつも私を乗せ
毎朝学校まで 送ってくれる
私が重いのか それとも
自転車が高いのか「ギンギン」と
音をたてて走る
これからも毎朝がんばって
私の自転車

けしゴム

熊小五年 柳田 淳

けしゴムは 僕のけし屋さん
鉛筆で書いた字をけしてくれる
けしゴムは きたない字をけす
すぐなくなる。
なくなると 暗い顔をする。
買ったばかりは
新しい顔をする。

短歌

川木 裕子

寒に入りなほ風牙ゆるさ庭への
土盛りあげて水仙芽生ゆ

鈴木 百合子

春ま昼菜の花摘みて幼な子と
農の合間をしぼし樂しむ

佐藤 祐禎

三月に入りても融けぬ蒙雪に
折れし松杉吹く風に哭く

鎌田 清衛

餅花をつけしが如き姿羅揺るる
雪に変わりし大寒の雨

小林 かおる

土を割りて顔のぞかせるふきのとう
春のひざしにかがやきて見ゆ

俳句

中山 安子

子の厄を払へし夜の凍月夜
老夫婦口争いの隙間風

鎌田 光子

両親の留守吹き抜けし隙間風
案じみし友より賀状届きけり

武内 よね

鶏の清き一声初酉
コスモスの病む子植えしが咲きにけり

永井 善子

子等帰り後の一日寝正月
正月も過ぎ例年の姉妹会

飯村 洋子

枯芝をつけし子の持つ回覧板
元日を白衣のままに迎へけり

河西 かつ

松本 ミヨ子

枯畑に立春の風やわらかく
根深の青味目立ち始めぬ

木下 千代子

留守の犬退院の主にからまりて
土産の梅の蕾こぼれる

飯田 良江

うす曇り山やま遠くうすらぎて
湿り気ただよひ春のほひす

中山 貞夫

春雨にかすむはるかな山すその
炭焼く煙たなびきて見ゆ

吉岡 友子

幼稚園に孫を送りて祖母ひとり
人形つくりて帰り待ちある

永岡 清子

枯草の野辺に芽を出す露のとう
そつとふるれば春のいぶきす

菅野 ミヨ

着ぶくれて吾老いたるを悟りけり
添え書のあればうれしき年賀状

結城 千代

薬草の匂ひになれし炬燵かな
初売りに何求めんとさわめきぬ

木村 蓉子

親よりも大声あげ豆を撒く
来る便りみな立春と書いてあり

猪井 静枝

池凍て、鏡となりし真昼かな
ベット下に臥す身にそそぐ寒の月

川木 裕子

鶯宿る夕日の沼の冬木立
寒の星つぶらに満ちぬ棟上げて

佐久間 信子

主なき枯菊焚かずありにけり

渡辺 政美



志賀直哉著

「八手の花」より

大熊町史第四巻口絵に志賀直哉から半谷重一氏にあてた葉書がのっている。直哉の祖父「直道」と半谷重一氏(熊川)の祖父「八十八」、石田茂宗氏(大川原)の曾祖父「茂宗」とは兄弟で、直哉は半谷、石田両氏のお宅を訪ねている。

志賀直哉の著「八手の花」という随筆に戊辰戦争のことが書かれていたので抜粋してみる。

戊辰戦争の時父(直庸)は総領だったので危険な所へはなるべく出さないようにしたらしい。それでも父は佐伯という同年の友人と一緒に百姓家の縁に並んで腰かけ話していると、流れ玉がとんで来て見ている前で友人が死んでしまった。

父はその時、若し簡単に引金をひいていれば父は柿の木から泊り鳥のように射落とされ死んでしまいがたがって私も生まれる事はなく私の弟、妹六人とその子と孫と一緒にすると四十六の血筋をひいた者が今のままでは生まれていなかったわけだ。その人がふと、側隠の情を起してくれたために今の私たちの人生がある。

父は降り続く雨に退屈し、ふなをとりに行ったが一番とれるのは水田の中へ転っている死体の下でその肉を食うためたくさん集まっている。父たちはそれをすくい捕って来てに食ったという。

祖父の兄直員は原釜にある大砲のかかりで戦争に出ている。私の聞いた話では、その大砲を左右に動かす事はできるが、上下には動かさない厄介な大砲で「原釜の厄介筒」といわれていたそうだ。

半谷八十八は小荷駄警固を命ぜられた。私たちが熊川の叔父さんといっている人だ。あばたのある背の低い丸々とした、いかにも人の好きそうな人で皆から親しまれていた。(重一さんそっくりの人のようです。)

文責 松本 幸一



日隠山と

大熊町

民話「苦麻川」に載っている天狗の鹿笛の活躍の舞台は、日隠山周辺であり、落陽、板付観音両物語や、その他にもこの山はでている。戦前大野小学校では春の遠足に高等科生は、日隠登山だった。

この山は地元からは見えないが、野上の奥にあることは誰もが小さい時から知っていた。不幸にして私はこの遠足に機を逸してしまった。今考えると大川原茅野のあたりの頂上かと思われる地点から戻ったのである。私がこの山に関心を持つようになった理由は、地元からは見えない幻的なものと言いつつ子どもと登ろうとした前年の初夏のある日、羽山下の長沢に山菜採りに出かけた。途中重いリュックサックを背負った一見都会風の青年が谷間に汗だくになって休憩している所に出会った。高い山もない阿武隈山脈なんの用事があったのだろうか、或は営林署職員かと思ったが、二、三質問したところ次のようなことだった。

僕は東京に住んでいる者ですが日隠山には二等三角点があつてこれを見に来るのがマニアの楽しみ



であるのと、鉄道沿線で且適当な旅程で体力の錬成にもっともよいとの返事「職業は三角点とは全然関係がない」とも言っていた。

これが三つ目の理由である。私には専門的なことは、わかりませんが簡単に言えば、三角点を継ぎ合せて、日本の地図はでき上っている。一ヶ所位二等三角点がありこの辺では日隠山が該当する。遠方から汽車で見に来られる方もいるのに、地元こんな良い所があったのかと、無関心は、無知と恥じ入りながら関心を抱いたわけである。新緑の日隠、紅葉の日隠それは私の期待に十分応えてくれる事でしょう。過日手元に届いた

大熊町史第四巻にも、明治三十年代に三角点に関する建標請書とか位置敷地明細表などが載っておりまた三角点碑標毀損報告などは村長から知事宛に行なわれていたに重要なものであるか、理解できると思うが、日隠山のそれは、その時代より前なのか町史では見当りませんでした。今年には慎重な事前偵察を行なうから誰かを誘い一緒に汗を流したいと思つている。特に児童であれば大歓迎する。幼い時郷里の想い出として「どこに住んでいても」この時の汗で征服した山について、きつと思いつてくれるでしょう。愛郷心と頑健な体力づくりに、また山登りに興味を覚えるきっかけにでもなれば、幸いであると思つて書いた次第です。

渡辺 典郎

絵になる川に

この公民館報の原稿は、政治的色彩をもたないもの、また他人を批判するような内容を含まないものと限定されています。その中で建設的な意見や主張を述べるものはなかなか難しいことです。こういう枠からはみだして自由に主張を述べるとすれば原稿も容易に集まるであろうと思います。

ひいき目かも知れないが、わが町の館報はこういう枠の中でよくできている方ではないかと思つています。



行事案内

- ◆ 高令者大学(開講式)
 - 五月二十七日午前九時三十分
 - 「仲間づくりと生きがい」
- ◆ 家庭教育学級(開講式)
 - 五月二十七日午前九時三十分
 - 「家庭環境と子どもの成長」
- ◆ 婦人学級(開講式)
 - 五月二十七日午前九時三十分
 - 「ボランティア活動の意義」
- ◆ 青年学級(開講式)
 - 五月十四日午後七時
 - 「学級活動にあたって」
- ◆ 親子読書会
 - 五月二十九日午前九時三十分
 - 「読書と子ども」
- ◆ 料理講座
 - 五月二十九日午前九時三十分
- ◆ 剣道スポーツ少年団入団式
 - 五月十日午前八時三十分
- ◆ テニス教室
 - 五月二十四日午前八時三十分
 - 町営テニス場
 - ※受講希望者は公民館にお申し込み下さい。
- ◆ 部落対抗少年ソフトボール大会
 - 五月三十一日午前八時十分
 - 熊町小学校校庭
 - 雨天の場合六月七日(日)

さて、まもなく釣り好きの方には待望の夏がやってきます。そして毎年熊川の魚影が年々薄くなつていくなげく声がかかります。

熊川は生活排水などで多少は汚染されていますが、まだまだきれいな川です。そして川には魚や他の生物がいなくては死の川と変わりありません。雑魚でもいい、小さい鮎でもいい、流れの中に泳ぐ魚を見たいものです。子ども達や親子連れが釣り糸を垂れているのは平和で絵になる風景ではないでしょうか。

アメリカのあのテネシー河にダム建設の際、小さな魚を保護するために、ダム建設が何年か中断され魚道をつくって保護したということを読んでことがあります。

わが町の熊川にも鮎の天然を促すために鮎のやな場をストッブする稚魚に魚道を設けてやれないものだろうか。

釣り好きの一人として、大熊町に骨を埋める覚悟で生活している者として熊川をいつまでも愛される川にしてゆきたいものです。

一町民より

スポーツ少年団活動を通して

私がスポーツ少年団に入団した動機は、特になかったけれど軽い気持ちでただなんとなく入ったのが始まりでした。

それから、団の人たちといっしょに活動してきました。その時は、まだ団員だったのでリーダー(高校生)たちの苦勞という大変さなどは、全然気付こうともしませんでした。

その後、私は高校生となりスポ

ーツ少年団のリーダーとして、団活動をしていかなければならぬとなり、リーダーの役割というものがわかっていなかったので、しばらくの間はずいぶんと、とまどったものでした。

しかし今では、リーダーとしての役割や自覚が身に付いてきたと思います。

スポーツ少年団では、スポーツ活動のほかに、野外活動(キャン

プ・サイクリング・芋煮会...etc) また、機関誌の発行などをしていきます。そのどれもが団員たちの意見を通して、私たちリーダーが計画し実行していくのですがその過程で私たちがミーティングを行ないその中からそれぞれの意見をまとめ、その計画を実行していくわけです。

話がかわりますが、これまでにいろいろ大会や他の団との交流会等に参加させていただきましたが、そこでいつも経験するのは他の団の人たちと初めて会った時は

緊張感でみなぎっていたのに、必ず最後には忘れることのできない友だちになってしまふことです。

この友だちを自分で作った時のうれしさをスポーツ少年団活動のなかでまず最初に知りました。

最後に、このような活動を通して知ったことは、団活動を行っていくには、まず一人一人の自覚と協力が必要なのだということです。

加茂 健二



ふるさとを思う

志賀 毅

私が熊町で生まれ八十五歳になりました。故郷を離れ六十年になります。静岡、名古屋に各二十年おり、たゞいまは、名古屋より車で三十分の人口五万の津島市に住んでいます。西の方に養老山脈が故郷の阿武隈山脈ほどの所があり市より四キロ程西に川中一五〇米もある木曾川が緩やかに流れており近くには原野とか山林はなく平で広く愛知県の穀倉地帯です。昭和二十五年頃、大久村の霧島昇が誰か故郷を思わざると言う歌謡曲がヒットしたことがあります。その如く遠くはなれて居ると、年はとつても年少時代の古里のことがしのべれます。春の学校の遠足で日隠山に登った時、大川原の部落もすぎ、山の麓で小休止しました。そこには、せせ



るかかなたは全山雪におわれ、するどく切立った山を見た時は雄大さに只々驚きました。誰かが鎌倉岳だと云いました。安達太良山と思えます。大川原の山合いから流れくる熊川は水清く豊富で、学校下の大橋あたりは学童の格好の水浴び場でしたが、何十年振り

あり、春五月には赤いつつじが一面に咲き美しく、学校では小遠足をしてつつじ見をしたものです。冬ともなれば学校下の大橋あたりに吹く阿武隈おろしのつめたさにかげ足で通り抜け学校に着くと、先生がフットボールの球を校庭にほうると、生徒たちは右に左に球を追い取っては、け返し始業前の



(筆者は田熊町村熊町志賀和治の四男として生れ旧制相馬中学校を卒業後、静岡県職員二十一年さらに愛知県庁職員二十余年を勤めて退職。現在愛知県津島市老松町に住んで余生を送っております)

編集後記

風薫る五月、庭のライラックの花の香高き好季節、野山の緑を濃くし、なま暖かい風が素肌に快く初夏の香りを感じます。

昭和五十六年度の社会教育、社会体育事業の活動をスタートしました。各種講座、学級、スポーツ等に町民各位が、豊かな教養、体力づくりに積極的に参加されまことを願っております。

この季節になると車の速度も自然と加速し、歩行者の足の運びは減速、交通事故を起しがちです。心を一層引き締め事故を起さないうよう努めましょう。

公民館報の発行も町民のご協力と編集委員の活躍により一一五号を発行することができ誠に同慶に堪えません。本年度も町民の館報として編集して参りますのでご指導とご協力をお願いします。

なお編集委員は次の方々ですの
松本幸一 井戸川俊正 鎌田清衛
佐々木親兵衛 島 覚 志賀栄子
木幡キサ

館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で
① 主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。
② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものではないこと。